

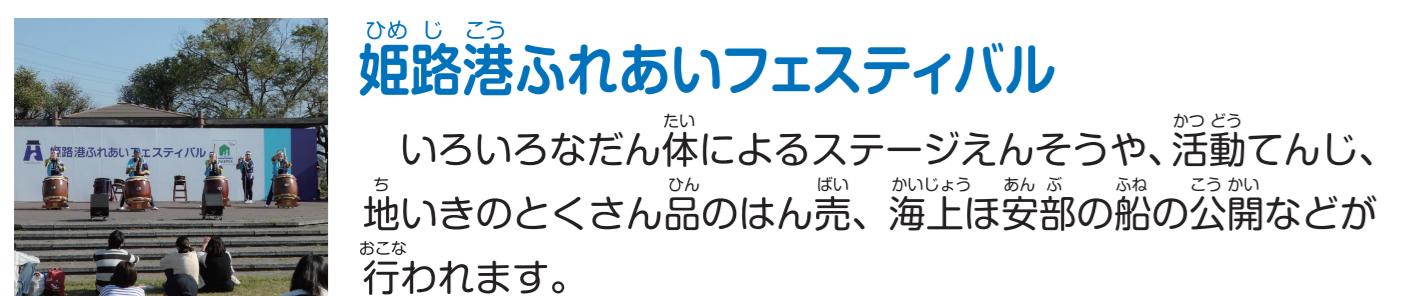


ひめじこう 姫路港に親しもう♪

姫路みなと祭海上花火大会

姫路港飾磨地区で開かれています。ほかではなかなか見ることのできないしゃく玉やスターマイン、仕掛け花火が姫路港の夜空を彩ります。

しゃく玉……直径30cmくらいの大玉の花火
スターマイン…短時間にれんぞくして打ち上げる花火



海水よく・しおひがり

的海水よく場、白浜海水よく場では、春はしおひがり、夏は海水よくが楽しめます。いろいろな魚をつることができます。

公園

水べをさん歩したり、港の風けいをなめたり、海に親しむことができます。



発行 姫路港ポートセールス推進協議会
ホームページ <https://himeji-port.com/>
事務局 兵庫県中播磨県民センター
姫路港管理事務所内
〒672-8063
兵庫県姫路市飾磨区須加294
TEL 079(235)0176
FAX 079(234)5172

ひめじこう 港の役わり♪

まわりを海にかこまれた日本では、「港」は世界につながるげんかん口です。日本へは世界のいろいろな国からたくさんのお肉や野さいなどの食べ物、服や電化せいい品などの生活用品、石油やガスなどのエネルギーといった、さまざまな物をほかの国から持ってきています。

そして、世界中からやって来る品物のほとんどが船で運ばれ、「港」に着きます。

姫路港には、「港」に運ばれた天ねんガスから電気をつくる火力発電所や、石炭や鉄などを使う工場があり、地いきの工業の中心になっています。

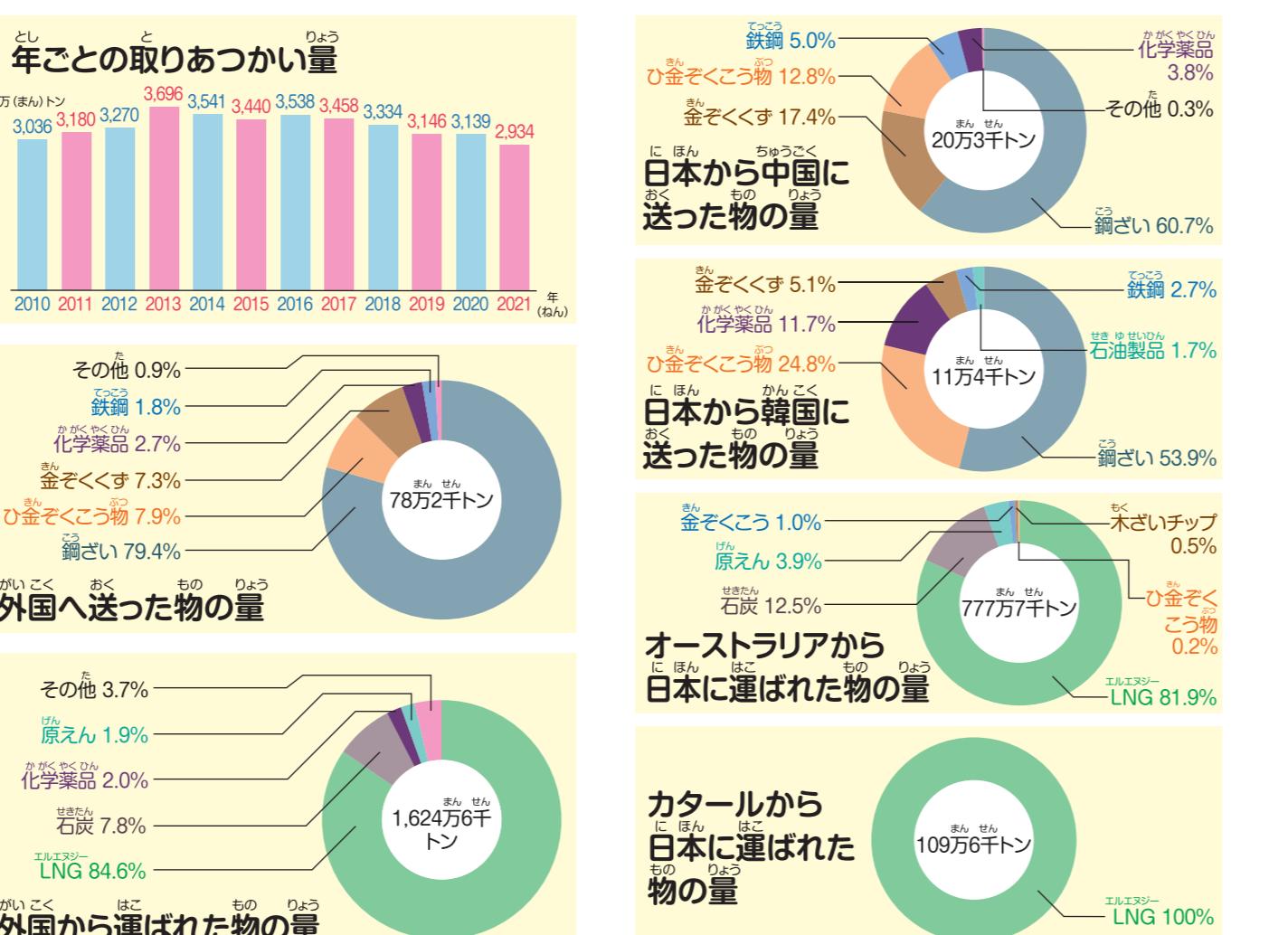


ひめじこう グラフで見る姫路港♪

姫路港で令和3年（2021年）に取りあつかった物は、2,933万9千トンほどもあり、そのうち外国から出入りした物が5分の3くらいです。

品目ごとに見てみましょう。外国へ送った物のうち5分の4くらいが鉄で、62万1千トンほどになります。逆に外国から運んできた物では、そのうちの5分の4くらいがLNG（えきげんねんがス）で、1,375万トンほどになります。相手国を見ると、中国や韓国などへ鉄を多く送り、オーストラリアやカタールなどからLNGを多く運んでいます。

ひめじこう 姫路港で取りあつかっている物



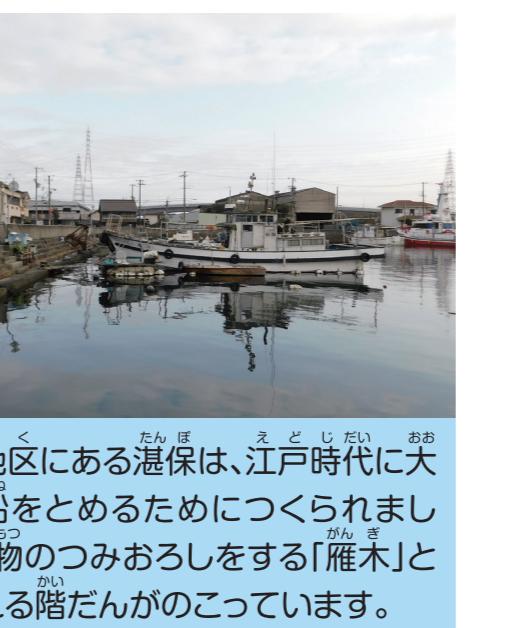
ひめじこう 古いれきしをもつ 姫路港♪

瀬戸内海は、日本海や太平洋にくらべて波があおだやかなため、古くから重ような船の通り道でした。

姫路港は大昔「飾磨江」とよばれ、その名は「萬葉集」という奈良時代の書物にものっています。その当時は瀬戸内海を行き来する船だけでなく、中国へ行く遣唐使の船も集まりました。その後、平安時代から明治時代までは「飾磨津」（津は港という意味）とよばれ、瀬戸内海の大きな港の一つとしてさかえました。江戸時代には、日本海や北海道の港から大阪へ米や魚を運ぶ前船がやって来ました。明治のはじめには生野鉱山と飾磨津との間に日本では初めての高速度で物を運ぶための馬車用道路の「銀の馬道」ができました。

今、姫路港は日本と世界をむすぶ港として、兵庫県の港のぎょくになっています。

近畿のエネルギーきょう給でも大きな役目があり、日本で1位である「国際拠点港湾」にも指定されています。また、家島諸島への旅客船や小豆島へのフェリーが発着するほか、クルーズ客船も入港します。



ひめじこう みはたらき者の姫路港♪

ひとにもつ ものひめじこう みはたらき者の姫路港♪

港に入ってきた船をつなぐところです。つないだ船から、人が乗りおりたり、荷物をつんだりおろしたりします。姫路港は大きな船がたくさん来るので、岸べきのそばの海はかなり深くなっています。



おおなみひとふねまつは
安全に船から乗りおりたり、荷物をおろすため、海からやってくる大きな波を止めて人や船を守ります。



おおなみひとふねまつは 船を安全に港へみちびく「とう台」

港の出入口にある海のひょうしきです。とくに夜の海は真っ暗なので、光のしん号を出して船に港のいちを知らせるとう台は、船乗りにとって大事なじゅるします。



おもひともつ 重い荷物をどんどん運ぶ「クレーン」

姫路港には、ごく物、木ざいチップ、石炭などがせん用船で運ばれてきます。港の岸べきでは、クレーンでこれらの荷物のつみおろしをしています。

クレーンの先にある、大きな手のようなグラバケットで、荷物をしっかりつかんで運びます。

ひめじこう わたしたちのくらしを守る 姫路港♪

今は、地球の温だん化などのかんきょう問題に対して、世界でさまざまな対策が進められています。姫路港でもかんきょうを守るために、「モーダルシフト」や「カーボンニュートラルポート」など、いろいろな取組を行っています。

モーダルシフト

モーダルシフトとは、か物を運ぶときに使う乗り物を、地球温だん化のもとになるCO₂（二さん化炭素）をたくさん出すトラックから、地球かんきょうにやさしい船や鉄道にかえていくことです。



カーボンニュートラルポート

カーボンニュートラルとは、CO₂を出す量をへらすだけでなく、CO₂を出すはたらきがある森林を増やしたりすることで、空気中のCO₂をふやさないようにしようとしています。そのため、姫路港を中心とする地いきでは、次のようなことをしようと考えています。

- 1 CO₂を出さないように港のしせつなどを新しくしたり直したりすること
- 2 港の近くの会社がともに協力して、CO₂を出さないようにすること
- 3 燃やしてもCO₂が出にくいクリーンエネルギーである水素・アンモニアなどを受け入れたりたためたりできるようにすること



日本は、台風や地震のひ害を受けることが多く、海に近い地いきでは、高さおや波のけんにさらされています。港には、これらのさいがいからわたしたちのくらしを守るためのしせつがあります。



高しおさいがいは、台風やてい気つによっていつもよりも海面が上がってきて、わたしたちの住む家やまちを水びたしにしてしまい、時には命までうぼうおそしいさいがいです。



こうした高しおさいがいに対応して、海岸にはぼうちょううていを、川には水門をつくって、水が来ないようにしています。

姫路港の一部の岸べきは、地しがおきて道路が通れなくなったりするが、ひなんする人々や、食りようなどを船で運ぶことができるように、地しがんでもこわれにくいたいしん強化岸べきにしています。

